プロフィール公開の第一義は「私は怪しい者ではありませんよ。信用しても大丈夫ですよ」という安全報告だろう。それから「私はこういうことをやってきました。こういうことが出来ますよ」という自己宣伝と「私はこういう性格です。よかったら友達になってください」という社交だろう。人は自己防衛のために怪しげなものには近づかない。プロフィールを隠す者は「怪しいから隠さなければならないのだ」と判断されるだろう。そして人は他人を知って自分と比べたがる。また素敵な人に出会ったら、その人がどんな人生を歩んできたかを知りたがる。だからどういう人物かわかった方がよいだろうな、と思う。その方が嬉しいことはいっぱいある。けれど一方ではその弊害も少しある。多くの民衆は甘言に乗る。プロフィールに騙される詐欺もある。かといって英会話が出来なくても「英文科」を卒業していれば「英文科卒業」と書くわけであり、それを見て単に「卒業したのね」と思う人と「きっと英語ペラペラね」と思う人がいるだろう。だから紙上のプロフィールには「他人からどう思われたいか」の本人基準と「私はこう解釈する」という他人基準が存在する。また人は立派な経歴に左右されやすい。もちろん経歴に書かれている実績は評価に値するものであるには違いないが、同じ発言をしても経歴のある人とない人では、経歴のある人の方に注目が集まる。時に経歴を持つ人が間違っていて、経歴のない人が正しかったとしても。

そして私は「国文科出身」であるが、そのプロフィールと今やっていることはあまり関係がない。「文学研究者ですか？」「歌手ですか？」「語学堪能ですか？」と聞かれても「いいえ」と事実を答える。　私は「誰が」発表したかではなく、自分の発表物そのものを、先入観なく捉えてもらいたい。「専門家だから合っているに決まっている」「専門家ではないから間違っているかもしれない」そんなプロフィール上の評価ではなく、「結果」のみをありのまま受け止めていただきたい。過小評価も過大評価も望まない。

私は時折不思議な間違いを発見する。誰かが書いた中にどこかで見た文章がある。特に外国語の訳文は明らかに他人の転用だとわかるものがある。それは同じ個所が間違っているからだ。言葉を訳すとき、同じ表現になってしまうのは避けられない。けれど同じように間違えるのはそうそうできることではない。それは他人のものを無断借用して得意気に発表した結果、自分の評価を下げていることになる。

歌で考えてみると、誰かが自分の感覚で訳したものを原本にして別の訳詩を作ると、とんでもなく原詩からかけ離れてしまうことがある。それは言葉そのもの以外に「自分ではない別の人のプロフィール」も一緒に取り入れてしまっているからだ。そこで間違いが拡大する。「〇〇文科を卒業しました」その活用は、首席で卒業したかドン尻で卒業したかに関わらず、今も勉強し続けているかどうかにかかってくる。したがって紙上のプロフィールとは半ば過去のもの。現在の背景に過ぎない。だからプロフィールを全て現在の能力と考えて転用すると間違いが発生する。

私は原文を得るためにネット検索したときに面白い発見があった。原文に添えて訳が書かれている。「あ、この訳正しい」そう思って著者を知ろうとすると、それがわからない。得意気に発表している人ほど訳がメチャクチャ。「能ある鷹は爪隠す」のかどうか知らないが、結局その「正しい人」のプロフィールはわからなかった。(2012. 7. 4)